

「20・30歳代の生活に関する意識調査」の結果概要

株式会社明治安田生活福祉研究所(社長 石原 義男)は、「20・30歳代の生活に関する意識調査」を実施いたしましたので、その概要をご報告いたします。

本調査では、全国の満20歳～39歳の男女を対象に、現在の生活の状況や将来の生活設計について、家族生活、生活時間、結婚観、就労観、貯蓄観など多岐にわたる質問を行いました。

< 主な内容 >

- 単身30代は将来に不安 その原因は“仕事”“収入”“結婚” …… p. 8
- 男女とも“妻はパート”が理想 …… p.11
夫婦フルタイムの世帯でも、専業主婦世帯でも
- 夫婦間のコミュニケーション、7割の世帯が“合格点” …… p.13
男女の認識に大差なし
- 家事分担、夫婦間で意識に大差 …… p.15
妻「家事はワタシがやっている」、夫「オレも家事をやっている」
- 単身OL、家事はチャッカリ親まかせ? …… p.16
- 夫の休日、2人に1人が妻とショッピング。家事をするのは10人に1人・ p.20
- 第1子誕生、「毎月貯蓄を始めるか」 …… p.23
定期的貯蓄のキッカケは初めての子どもの誕生

本資料は、日本銀行金融記者クラブ、文部科学記者会、厚生労働記者会に配布しております。

ご照会先	(株)明治安田生活福祉研究所 生活設計研究部 奥野、柴田、正札、森	電話：03(3283)9297 FAX：03(3201)7837 Eメール：rbj@myilw.co.jp
------	---	--

目 次

- 1 . 単身者、いま大切なものは“趣味”と“友だち”、これからは“恋愛”“資産形成”も
単身者が生活の中で大切にしていることの現在と将来 …… p. 4
- 2 . 既婚者、いまもこれからも大切なものは家族の“きずな”と“健康”
既婚者が生活の中で大切にしていることの現在と将来 …… p. 6
- 3 . 単身 30 代は将来に不安 その原因は“仕事”“収入”“結婚”
今後 10 年間の生活の展望 …… p. 8
- 4 . “ワタシの将来”を左右するもの “結婚”と“夫の出世・収入”
今後の生活に大きな影響をもたらすもの …… p.10
- 5 . 男女とも“妻はパート”が理想 夫婦フルタイムの世帯でも、専業主婦世帯でも
夫婦の理想の働き方 …… p.11
- 6 . 夫婦間のコミュニケーション、7 割の世帯が“合格点” 男女の認識に大差なし
夫婦間のコミュニケーション、夫婦で一緒に行動 …… p.13
- 7 . 家事分担、夫婦間で意識に大差 妻「家事はワタシがやっている」、夫「オレも家事をやっている」
夫婦の家事分担と男性の家事時間 …… p.15
- 8 . 単身OL、家事はチャッカリ親まかせ？
働く女性の家事時間 …… p.16
- 9 . パソコン、グルメ、習い事 単身OLの多彩なアフターファイブ
仕事のある日の正規就労者の過ごし方 …… p.17
- 10 . 夫の休日、2 人に 1 人が妻とショッピング。家事をするのは 10 人に 1 人
正規就労者の休日の過ごし方 …… p.20
- 11 . 第 1 子誕生、「毎月貯蓄を始めるか」 定期的貯蓄のキッカケは初めての子ども誕生
既婚世帯の貯蓄行動 …… p.23
- 12 . 女性のほうが貯蓄好き 頼りになるのはお金？
単身者の貯蓄行動 …… p.24

調査の概要

- (1) 調査期間 : 2006年3月2日～3月27日
 (2) 調査対象 : 全国の満20～39歳の男女
 (3) 標本数 : 3,500人
 (4) 抽出方法 : (社)中央調査社 世帯マスターサンプルから抽出
 (5) 調査方法 : 質問票郵送法
 (6) 有効回答数 : 1,439人(有効回答率41.1%)
 (7) 回答者の属性

男女別

男性	女性
697人 (48.4%)	742人 (51.6%)

年齢

	男性	女性	計
20～24歳	67	147	214
25～29歳	219	208	427
30～34歳	218	201	419
35～39歳	193	186	379

既婚・単身、家族形態

		男性	女性	合計	
単 身 者	結婚経験なし	320	274	594	
	結婚経験あり	16	14	30	
	同居しているパートナーあり	14	11	25	
既 婚 者	共働き 世帯	子どもあり	131	180	311
		子どもなし	45	43	88
	専業主婦 世帯	子どもあり	148	191	339
		子どもなし	16	21	37

(注1) 有効回答数1,439人に対し、上表の合計人数は1,424人。この差(15人)は、結婚経験や子どもなどについて回答がなかった人数。以下、本報告書において属性による比較をする場合、このような未回答者を除外していることがある。

(注2) 以下、本報告書における単身者とは、「結婚経験なし(594人)」を指す。

就労形態

	男性	女性	合計
正規就労者	555	224	779
非正規就労者	81	244	325
専業主婦・専業主夫	0	212	212
無職	33	30	63
その他・無回答	28	32	60

(注) 正規就労者とは、会社員・団体職員、会社役員・団体役員、公務員、自営業、自由業の合計。非正規就労者とは、派遣社員・契約社員、パート・アルバイトの合計。

1. 単身者が生活の中で大切にしていることの現在と将来

単身者がいま大切にしているものは、“趣味”や“友だち”など自由で楽しい生活
 これからは恋愛や人とのふれあい。資産形成など生活設計も意識
 30歳代になると、自由な時間や健康に関心が移る人も

(1) 単身者がいま大切にしているものは、“趣味”や“友だち”など自由で楽しい生活(図表1-1)

単身者が現在大切にしていることは、男性は「趣味・スポーツ・旅行」(42.5%)、女性は「友人・仲間」(48.9%)が4割台でトップ。3割台には、男性では「友人・仲間」「自由な時間」、女性では「親との関係」「趣味・スポーツ・旅行」「自由な時間」「恋愛」。男女とも自由に楽しく生活したい意識がうかがえる。

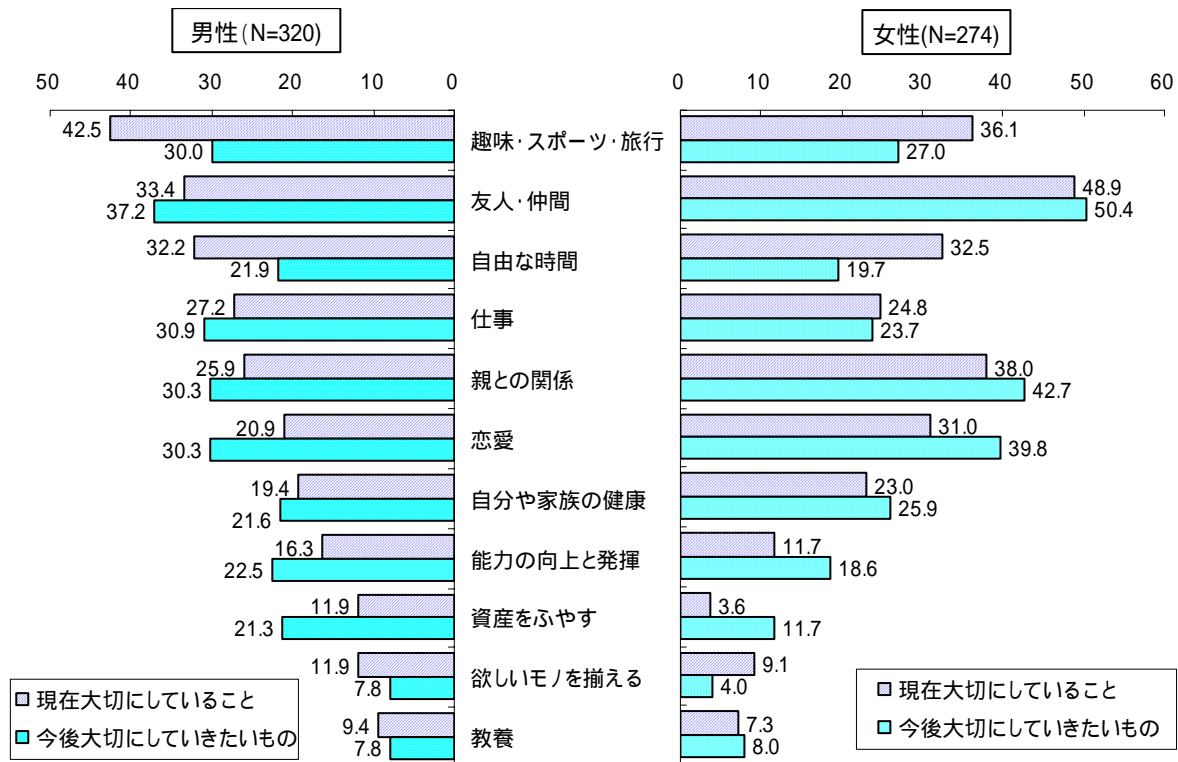
女性は男性に比べて、人とのふれあいの項目(「友人・仲間」「親との関係」「恋愛」)が10ポイント以上高いのが特徴。

(2) これからは恋愛や人とのふれあい。資産形成など生活設計も意識

今後大切にしていきたいものをみると、男女ともに「友人・仲間」がトップ。

現在と比較すると、「資産をふやす」「恋愛」「能力の向上・発揮」が増加し、「趣味・・・」「自由な時間」が減少。生活意識が今の自由で楽しい生活から恋愛や人とのふれあいを大切にしつつ、資産形成や家庭を持つこと、仕事のスキルアップなどの生活設計に移行する。

図表1-1 単身者が大切にしていること(回答は現在、今後、それぞれ3つ以内)(%)



(3) 30歳代になると、自由な時間や健康に関心に移る人も

年齢層別にみると、30歳代になると自由な時間を大切にし、健康を気にしている人の割合が高くなる。一方で、恋人や友人を重視する人の割合が低くなっている(図表1-2)。

なお、「必ず結婚したい」と回答した単身女性においては、現在半数以上(52.1%)が「恋愛」を大切にしている(図表1-3)。

図表1-2 年齢層別にみた現在大切にしていること(単身者) (%)

	男性			女性		
	20歳代 (N=196)	30歳代 (N=124)	30歳代 - 20歳代	20歳代 (N=214)	30歳代 (N=60)	30歳代 - 20歳代
自由な時間	29.6	36.3	+6.7	30.8	38.3	+7.5
自分や家族の健康	17.3	22.6	+5.2	21.0	30.0	+9.0
友人・仲間	40.3	22.6	-17.7	50.9	41.7	-9.3
恋愛	26.5	12.1	-14.4	34.1	20.0	-14.1

図表1-3 「必ず結婚したい」女性が現在大切にしていること(上位5位) (%)

	1位	2位	3位	4位	5位
必ず結婚したい 女性(N=71)	恋愛 52.1(31.0)	友人・仲間 42.3(48.9)	親との関係 36.6(38.0)	仕事 32.4(24.8)	趣味・・・ 31.0(36.1)

注 ()内数値は単身女性全体の数値

2. 既婚者が生活の中で大切にしていることの現在と将来

既婚者、いまもこれからも家族の“きずな”と“健康”
 子がかすがいい 子どもがいると強まる“きずな”

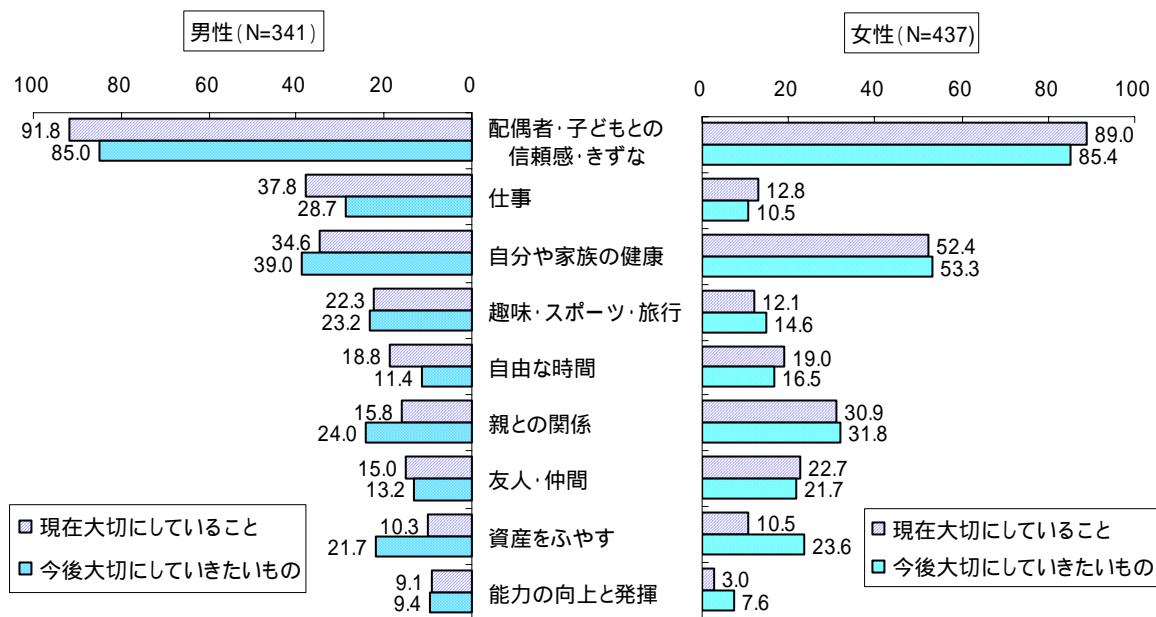
(1) 既婚者が大切にしているもの 「家族とのきずな」が断トツ(図表2-1)

既婚者が現在大切にしていることは、男女とも「配偶者・子どもとの信頼感・きずな」がほぼ9割で断トツ。次いで男性では「仕事」「自分や家族の健康」が3割台。これに対し、女性では「自分や家族の健康」が5割台と高い。一家の主婦として食事や生活習慣を管理する意識の反映だろう。

単身者と同様、女性のほうが人とのふれあいの項目(「親との関係」「友人・仲間」)で男性より高いのも特徴。

今後大切にしたいことについては、男女とも「資産をふやす」が10ポイントほど現在よりアップ。そのほか、男性では「自分や家族の健康」「親との関係」が増加し、「仕事」「自由な時間」が減少。女性では大きな変化はみられない。

図表2-1 既婚者が大切にしていること(回答は現在、今後、それぞれ3つ以内)(%)



(2) 子はかすがい 子どもがいると強まる“きずな”

現在大切にしていることを子どもの有無別にみると、子どもがいるほうが男女とも「配偶者…きずな」「自分や家族の健康」が高い。やはり、子はかすがいであるようだ。一方、子どもがいないほうが高い項目は男女に違いがあり、男性は「自由な時間」「友人・仲間」、女性は「親との関係」「趣味」(図表2-2)。

なお、既婚女性が現在大切にしていることで「仕事」が12.8%と低くなっているが、その原因は専業主婦が5割弱いるため、正規就労者では30.4%、非正規就労者で23.6%となっている(図表は割愛)。

図表2-2 子どもの有無別にみた現在大切にしていること (%)

子どもの有無	男性		女性	
	子どもあり (N=280)	子どもなし (N=61)	子どもあり (N=372)	子どもなし (N=64)
配偶者・子どもとの信頼感・きずな	93.2	85.2	90.6	79.7
自分や家族の健康	37.9	19.7	54.3	42.2
趣味・スポーツ・旅行	22.1	23.0	9.1	29.7
自由な時間	15.7	32.8	18.5	21.9
親との関係	14.6	21.3	26.6	56.3
友人・仲間	12.5	26.2	22.8	20.3

3. 今後 10 年間の生活の展望

単身 30 代は将来に不安
 単身者は、仕事と恋愛・結婚の見通しで展望に明暗
 既婚者の明るい展望は家族、不安は仕事と収入

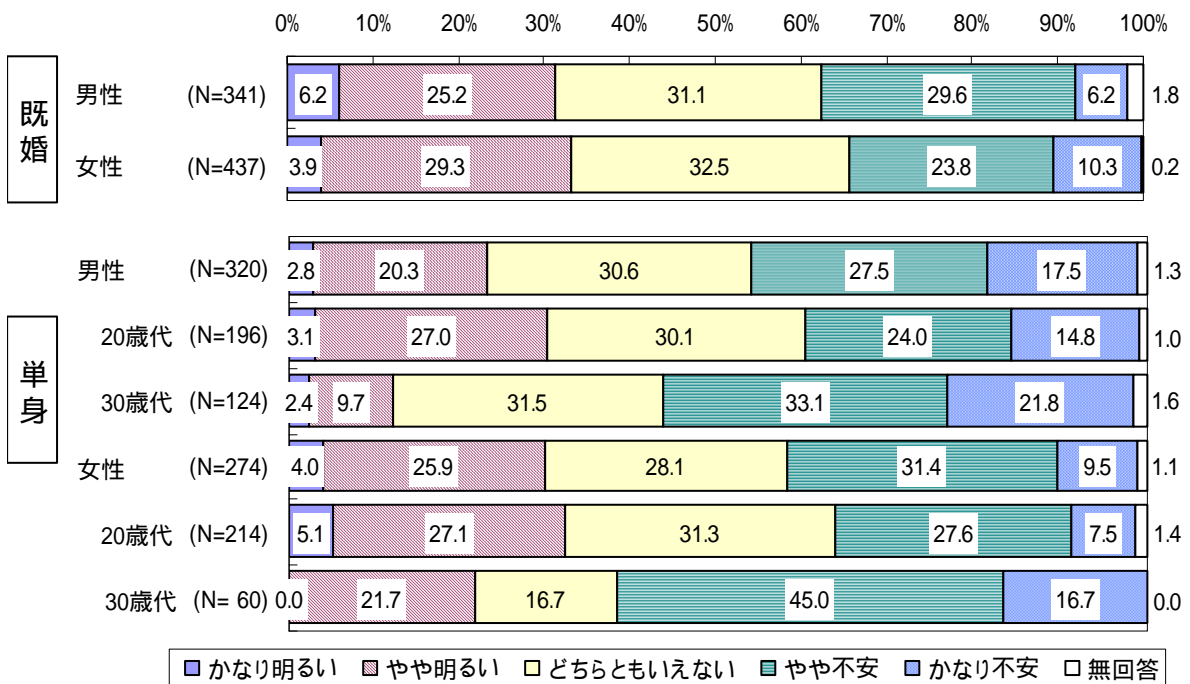
(1) 単身男性は 20 歳代で 4 割弱、30 歳代で 5 割強が将来に不安。女性の年代差はさらに大きく、30 歳代の不安者は 6 割強 (図表 3-1)

“ 今後 10 年間くらいの生活の展望が明るいか不安か ” を尋ねた。

既婚者は、『明るい』(「かなり明るい」と「やや明るい」) 割合と 『不安』(「やや不安」と「かなり不安」) 割合がそれぞれ 3 人に 1 人と拮抗。

単身者は 『不安』 が 4 割以上。特に男性では 『明るい』 を 20 ポイント以上上回り、「かなり不安」も 17.5% と多く、単身男性の不安度が高い。年齢層別にみると、20 歳代では回答の割合が既婚者とさほど変わらないが、30 歳代になると 『不安』 が男性で 5 割を超え、女性ではさらに大きく 6 割に達している。単身者は年とともに将来に対する不安感が増大するようだ。

図表 3-1 今後 10 年間くらいの生活の展望



(2) 単身者は、仕事と恋愛・結婚の見通しで展望に明暗

『明るい』と回答した人、『不安』と回答した人それぞれに、そのように考える原因を尋ねた結果は図表 3-2 のとおり。

単身者をみると、「仕事関係」と「恋愛・結婚」は『明るい』と『不安』の両グループに共通して多く、『不安』には「収入」を挙げた人も多い。単身者にとっては仕事と恋愛・結婚の見通しが今後の展望の明暗を分けている。

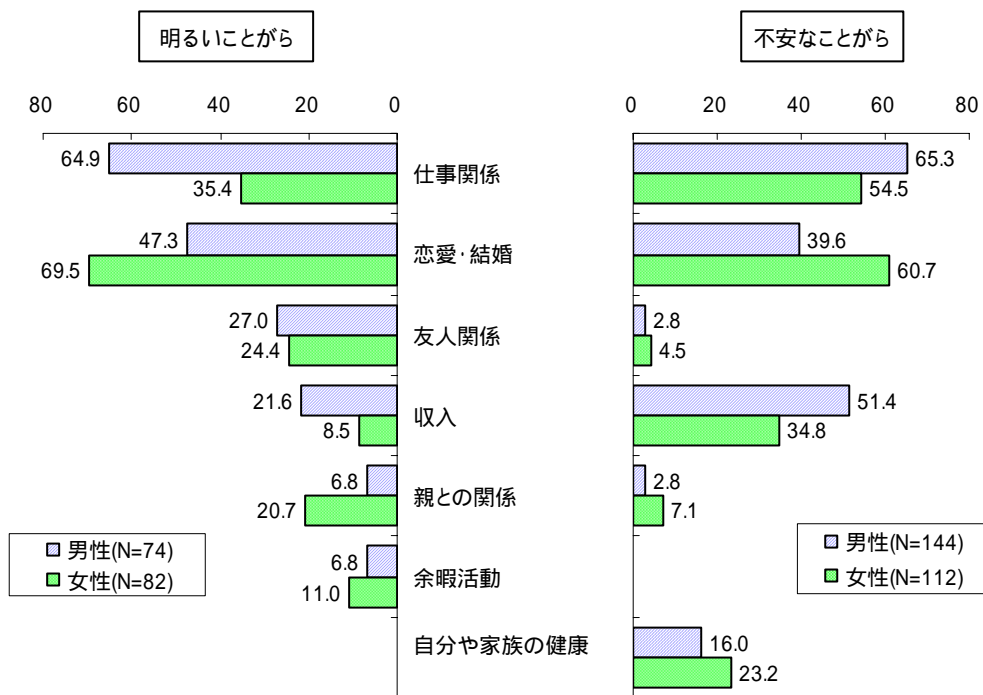
(3) 既婚者の明るい展望は家族、不安は仕事と収入

既婚者を見ると、明るいことからは、男女とも「配偶者・子どもとの生活」が9割でトップ。既婚者にとって将来の明るい展望は家族が鍵となっている。

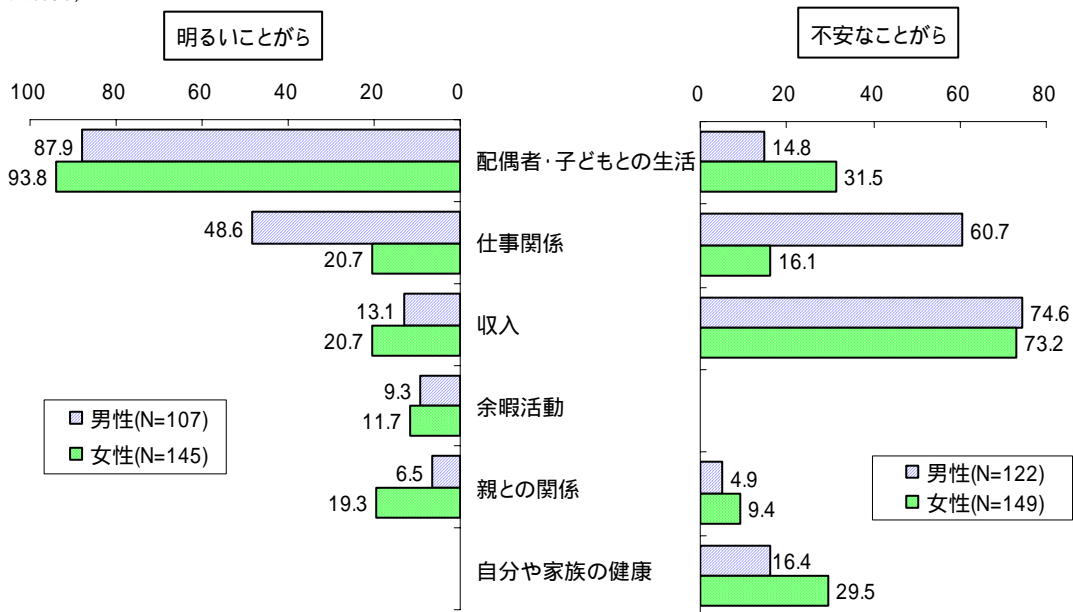
男性は女性に比べて「仕事関係」が『明るい』『不安』両グループとも多く、「収入」に対する不安を挙げた男性が単身者に比べて20ポイントほど高い。既婚男性の生活基盤の担い手としての責任意識が垣間見られる。

図表3-2 展望が「明るいことなら」「不安なことなら」(回答はそれぞれ2つ以内)(%)

(単身者)



(既婚者)



4. 今後の生活に大きな影響をもたらすもの

“ワタシの将来”を左右するもの “結婚”と“夫の出世・収入”
 “オレの将来”は自分の努力したい

(1) 女性の今後は配偶者したい(図表4)

“今後の生活に大きな影響をもたらすと思うものは何か”を尋ねた。

女性の既婚者では「夫の出世・収入」がほぼ5割でトップ。これを選択した人の割合は、当然のことながら、専業主婦(54.0%)、非正規就労者(49.0%)、正規就労者(33.8%)の順。

単身女性は「結婚」が5割強でトップ。就労形態別には、正規就労者(63.9%)のほうが非正規就労者(46.4%)より結婚の影響が大きいと予想している。

2番目に多いのは既婚、単身とも「自分の努力」だが、「運やチャンス」を挙げた人も5人に1人。

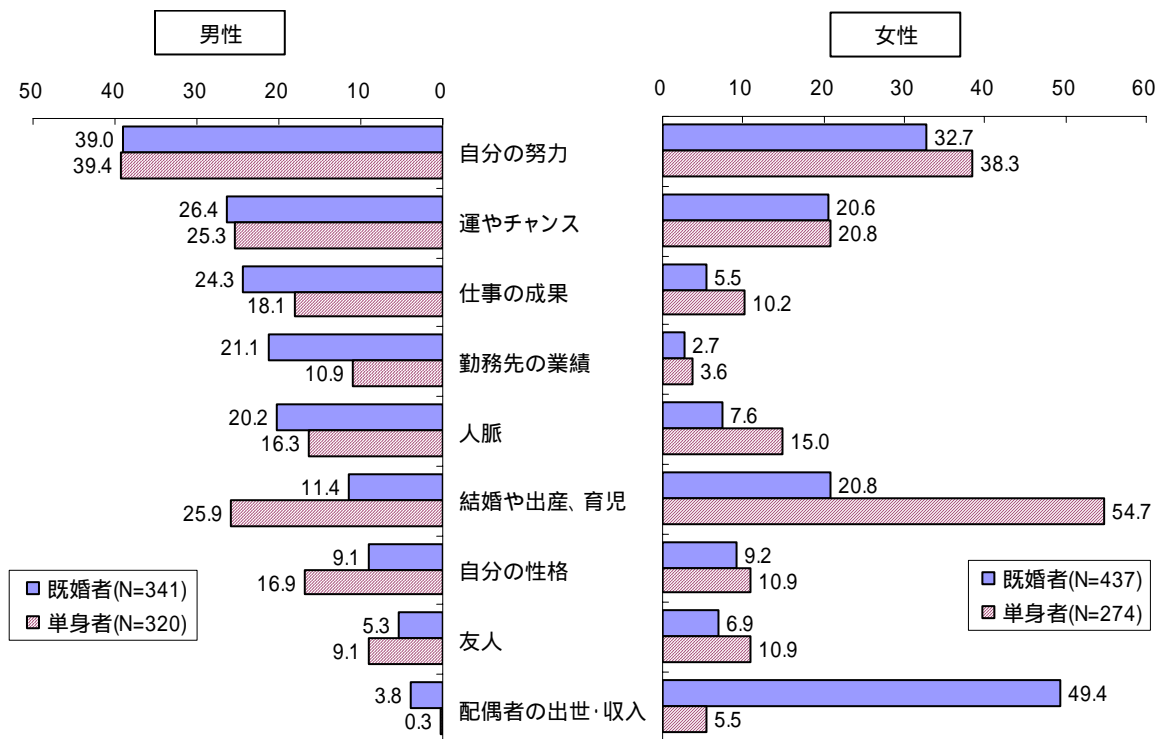
(2) 男性の今後は自分の努力したい

男性の場合、単身・既婚ともに「自分の努力」がほぼ4割でトップ。

既婚者ではそれに続いて、「運やチャンス」(26.4%)、「仕事の成果」(24.3%)、「勤務先の業績」(21.1%)そして人脈(20.2%)と仕事と関係が強いことがらが並んでいる。

単身者では「結婚」や「自分の性格」といったプライベートなことがらも多い。

図表4 今後の生活に影響をもたらすと思うもの(回答は2つ以内)(%)



5. 夫婦の理想の働き方

男女とも「妻はパート」が理想
 夫婦フルタイムの世帯では4割強、専業主婦世帯では5割前後が
 子どものいる女性の7割は働くことが理想
 男性は子どもを持つと専業主婦支持派に

(1) フルタイムで働く妻の4割強が、理想は「短時間労働」

“夫婦の働き方はどの形態が理想か”に対する回答を、現在の夫婦の働き方別にみた結果は図表5-1のとおり。

夫婦ともにフルタイムで働いている人のうち、今の働き方を理想と答えた割合は3人に1人で、男女とも4割強が「妻は短時間労働」が理想と回答した。また、「妻は専業主婦」が良いとする回答は、男性が12.3%、女性が17.9%。ともにフルタイムで働いている夫婦の中でも、妻が専業主婦という世帯モデルが理想のイメージとして残っているようだ。

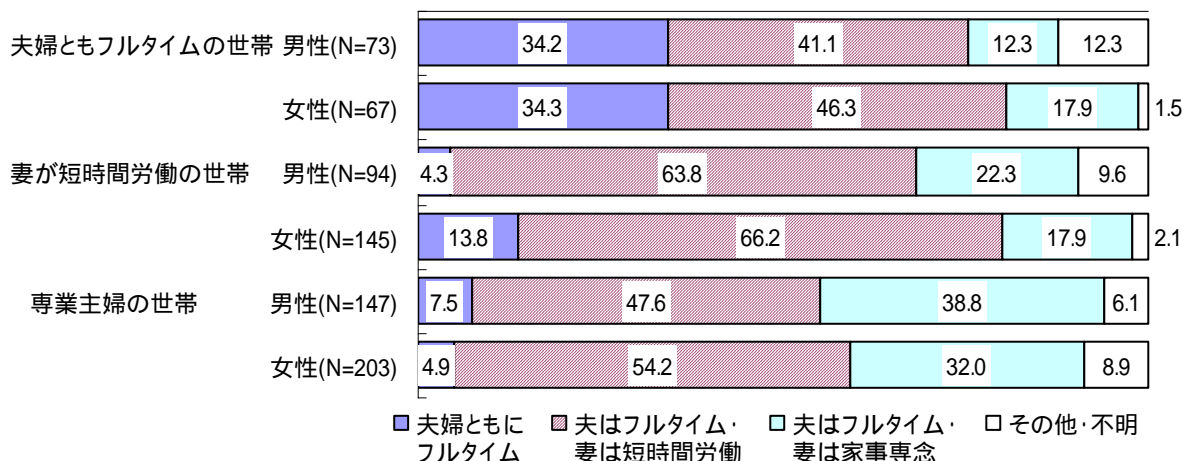
妻が短時間労働をしている世帯では、それを理想とする答えが圧倒的に多く、男女ともに6割強に達した。また、この世帯では、男性の2割強、女性の2割弱が「妻は専業主婦」と回答している。

(2) 専業主婦世帯の約半数が、「妻は短時間労働」が理想

専業主婦世帯の男性の5割弱、女性の5割強が「夫はフルタイム、妻は短時間労働」と回答し、「妻は専業主婦」が理想と考えている割合は3分の1にすぎなかった。

現在は子育てのために妻が家事に専念しているが、いずれは職業に就くことを望む夫婦が多いとみられる。ただし、この中には、働くことを理想と考える人と、家計等のために働くことが望ましいと考える人が混在していると考えられる。

図表5-1 理想としての夫婦の働き方（現在の夫婦の働き方別）（%）



(3) 男性の「専業主婦」支持率には子どもの有無で目立った差

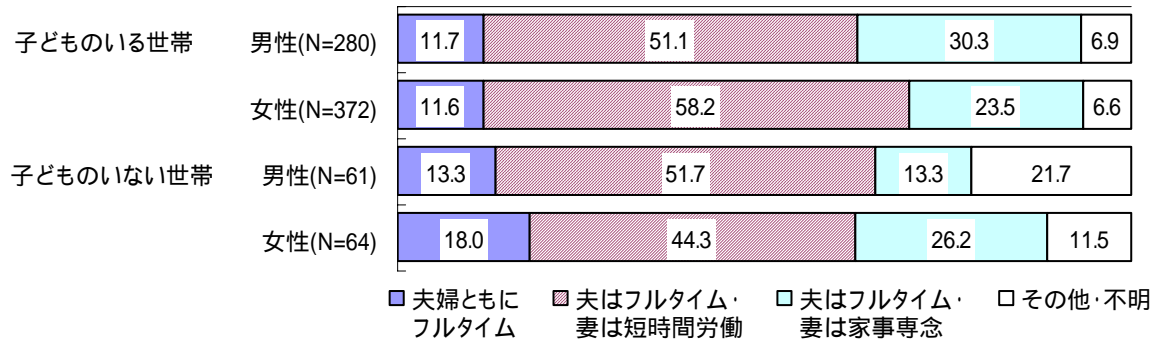
夫婦の理想の働き方について、子どもの有無別にみた結果は図表5-2のとおり。

子どものいる男性の3割が「妻は専業主婦」を理想と考えている。この割合は子どものいない

男性の倍以上。実際に子どもを育てていく中で、妻には子育てに専念してほしいという考え方を持つようになるのであろう。

子どものいる女性の6割弱が「短時間労働」と答えており、フルタイムとあわせると、働くことを理想と考える割合は7割に達する。「専業主婦」を理想とする割合は、子どものいない女性よりも低く、子どものいる女性の多くが働くことを希望していることがわかる。

図表5-2 理想としての夫婦の働き方（配偶者のいる男女。子どもの有無別）（％）



6. 夫婦間のコミュニケーション、夫婦で一緒の行動

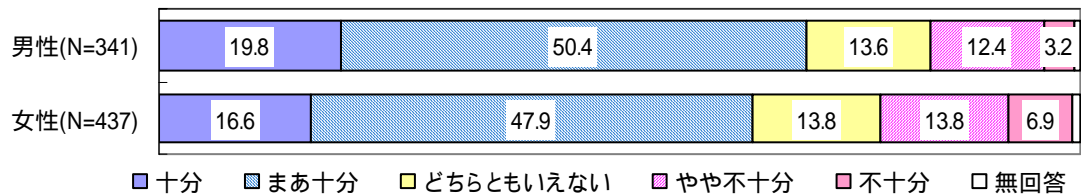
夫婦間のコミュニケーションは7割の世帯が“合格点” 男女の認識に大差なし
 子どものいない夫婦の過半数は、夕食を「ほぼ毎日」一緒に
 子どものいる夫婦の3分の2がこの1年間に家族旅行

(1) 夫婦間の会話・コミュニケーションは7割が合格点

“夫婦間の会話・コミュニケーションはどの程度ですか”という質問に対し、男女とも約2割が「十分」、約5割が「まあ十分」。あわせてほぼ7割がよいと回答。

女性のほうが否定的な回答が若干多かったものの、コミュニケーションの現状認識に男女間で大きなギャップはみられなかった(図表6-1)。

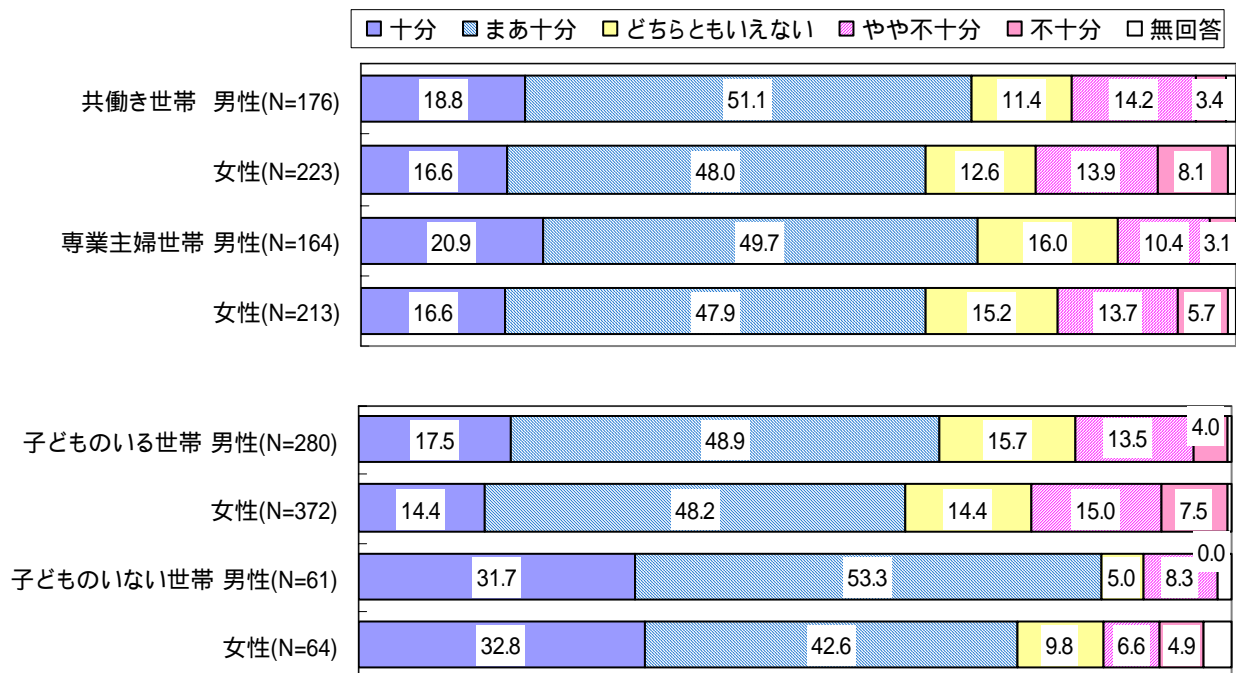
図表6-1 夫婦間の会話・コミュニケーション(男女別) (%)



夫婦の働き方別に比較しても、共働き世帯と専業主婦世帯との間に違いはみられなかった。

ところが、子どもの有無によって大きな違いがあり、「十分」と答えた割合は、男女とも、子どものいる世帯は子どものいない世帯の半分程度にとどまった。子育てに時間をとられ、夫婦でゆっくり会話をする時間がとれない状況がうかがえる(図表6-2)。

図表6-2 夫婦間の会話・コミュニケーション(夫婦の働き方別、子どもの有無別) (%)



(2) 子どものいない夫婦の過半数は、夕食を「ほぼ毎日」一緒に(図表6-3)

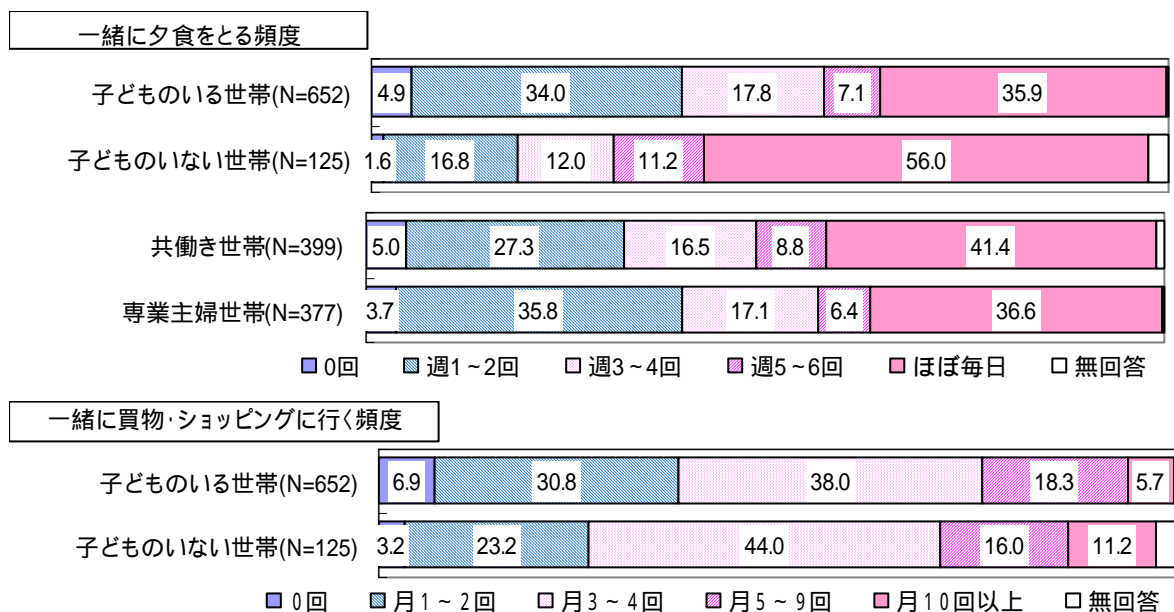
夫婦で一緒に夕食をとる頻度は、子どものいない世帯では「ほぼ毎日」が半数を超える(56.0%)。一方、子どものいる世帯では、「ほぼ毎日」と「週2回以下」がいずれも4割弱と、二極化がみられる。平日は父親の帰りを待って一緒に食卓に向かうことが難しい家庭も多いようだ。

働き方別にみると、共働き世帯、専業主婦世帯ともに「ほぼ毎日」と「週2回以下」の二極化がみられ、働き方による有意な差はない(注)。

買物・ショッピングは、子どものいる世帯もいない世帯も、ほぼ週末に1回ずつと考えられる「月3~4回」が約4割と最多で、次いで「月1~2回」。子どものいない世帯では、1割を超える世帯が「月10回以上」一緒にショッピングをしている。

(注) カイ二乗検定結果:「子どものいる世帯」と「子どものいない世帯」は $\chi^2 = 0.0000112$ で、1%水準でみても差がある。「共働き世帯」と「専業主婦世帯」は $\chi^2 = 0.10384$ で、10%水準でみても差がない。

図表6-3 夫婦で一緒に行う頻度(夕食、買物・ショッピング)(%)



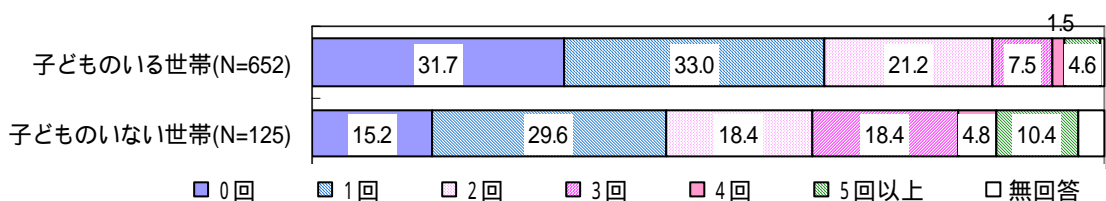
(3) 子どものいる夫婦の3分の2が年に1回は家族旅行(図表6-4)

この1年間に夫婦で一緒に旅行に行った回数は、子どものいない世帯の約3割が「1回」、「2回」と「3回」がそれぞれ2割弱。一度も行かなかった夫婦は15.2%。

一方、乳幼児のいる家庭では旅行は難しいのか、子どものいる世帯の約3割が「0回」と回答。

しかしながら、3分の1の世帯は「1回」行っており、「2回」も2割。子どものいる夫婦の3分の2が、この1年間に1回以上一緒に旅行をしている。

図表6-4 この1年間に夫婦で一緒に旅行をした回数(%)



7. 夫婦の家事分担と男性の家事時間

共働き世帯でも「夫婦平等に家事分担」は1割
 妻は「家事はワタシがやっている」、夫は「オレも家事をやっている」
 休日の夫の「家事・家の用事」は約2時間 共働き世帯と専業主婦世帯の差なし

(1) 共働き世帯でも「家事は夫婦平等」は1割前後 家事分担の現状認識に男女ギャップあり
 (図表7-1)

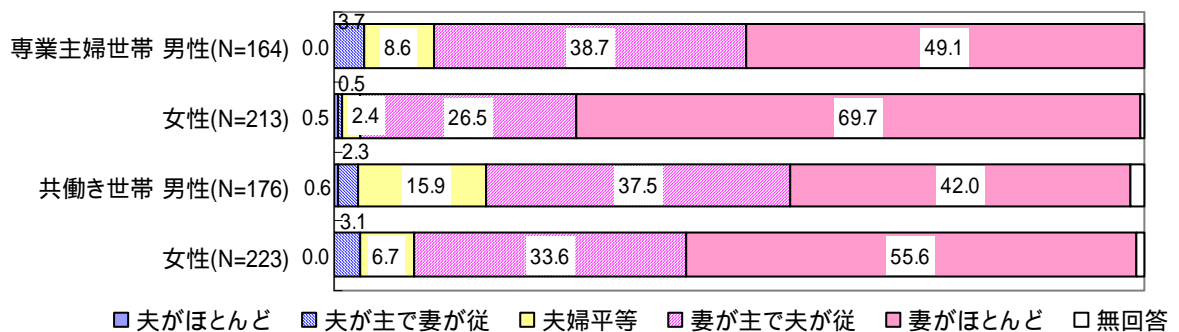
専業主婦世帯では、家事は「妻がほとんど」と回答した割合は、男性が5割、女性が7割。「夫婦平等」は男性では8.6%、女性では2.4%だった。

共働き世帯でも、男性の42.0%、女性の55.6%が「妻がほとんど」と回答しており、「妻が主で夫が従」を加えた「妻主体」とする回答が、男性の8割、女性では9割に達している。「夫婦平等」とする回答は、男性15.9%、女性6.7%と少ないものの、専業主婦世帯と比べると、男性1.8倍、女性は2.8倍。

「妻がほとんど」の割合は女性が男性を大きく上回っており(男女差は、専業主婦世帯20.6ポイント、共働き世帯13.6ポイント) 家事分担の現状認識は男女間でかなりのギャップ。

図表7-1 現在の夫婦の家事分担

(%)

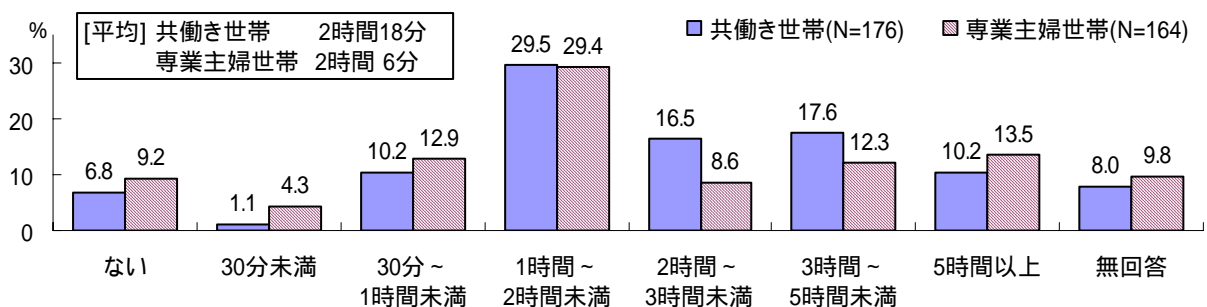


(2) 休日の夫の「家事・家の用事」の時間に、共働き世帯と専業主婦世帯の差なし (図表7-2)

休日に「家事・家の用事」に費やす時間の平均は、共働きの夫が2時間18分、専業主婦世帯の夫が2時間6分。両者に大きな差はなかった。

共働き世帯の18.1%、専業主婦世帯の26.4%が「1時間未満」と回答。「家事」に「家の用事」を加えた時間を問う質問であったが、共働きの男性の6.8%が「ゼロ」と回答している。

図表7-2 休日の家事・家の用事の時間(配偶者のいる男性)



8. 働く女性の家事時間

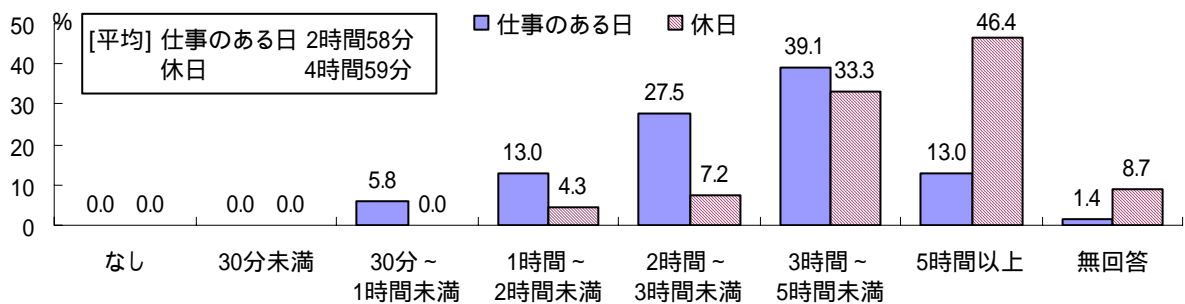
働く既婚女性は家事労働もシッカリ 平日3時間、休日5時間
親と同居の単身OL、家事はチャッカリ親まかせ？

(1) 正規就労の既婚女性の家事時間は、仕事のある日3時間、休日5時間(図表8-1)

正規就労の既婚女性が家事や家の用事に費やす時間は、仕事のある日は平均2時間58分。分布をみると、「3時間～5時間未満」が39.1%、「2時間～3時間未満」が27.5%。「5時間以上」という人も13.0%にのぼった。

休日になると家事・家の用事の時間はさらに増え、平均4時間59分。休日は「5時間以上」という女性が半数近くに達した。平日に手がまわらなかった家事を休日にまとめて行う姿が想像される。共働きでも夫の協力が十分に得られず(7(2)参照)妻に負担がかかっている家庭も多いようだ。

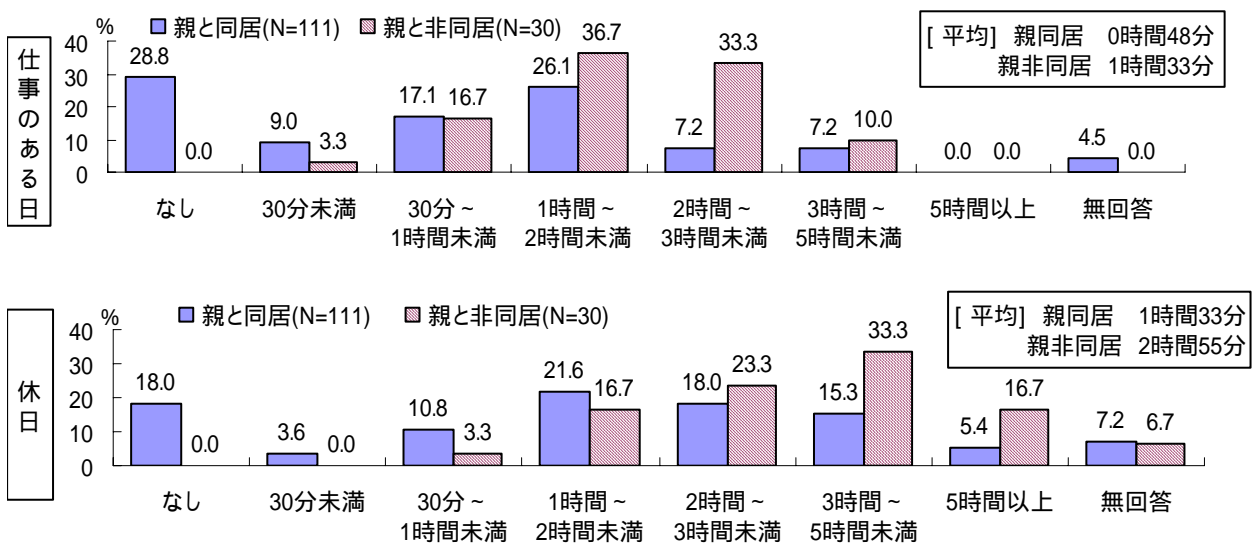
図表8-1 正規就労している既婚女性の家事・家の用事の時間(N=69)



(2) 親と同居している単身OLの3割が平日は家事にノータッチ

正規就労の単身女性が家事に費やす時間は図表8-2のとおり。親と同居している人の場合、仕事がある日は3割弱、休日でも2割弱が家事や家の用事をまったくしていないと回答している。親と同居していない女性との差が明確にあらわれている。

図表8-2 正規就労している単身女性の家事・家の用事の時間



9. 仕事のある日の正規就労者の過ごし方

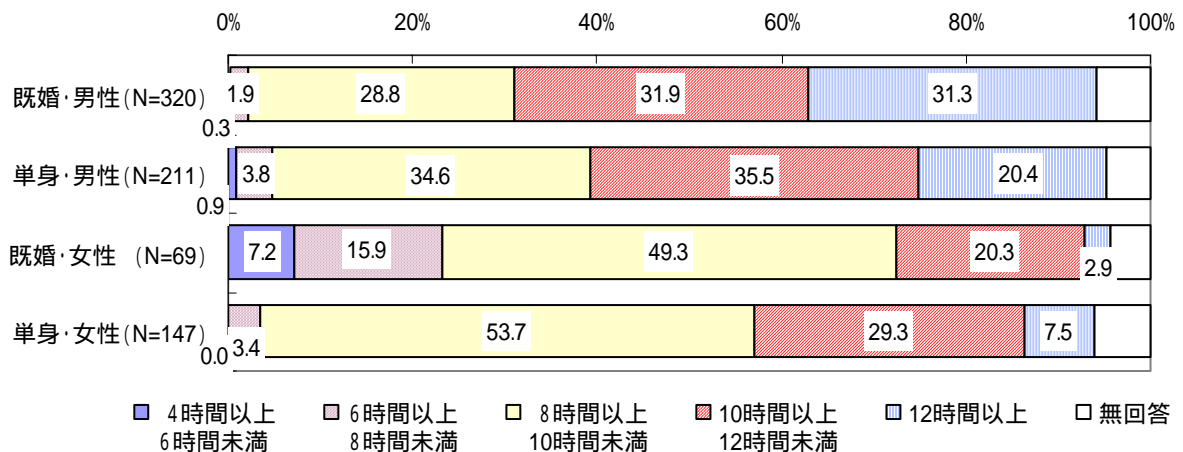
男性の仕事時間、10時間以上が過半数、既婚男性は12時間以上も3割超
女性のアフターファイブ 既婚者は家族中心、単身者はパソコン、グルメ、習い事…
男性のアフターファイブ 既婚者は家族とのひと時、単身者は1人の時間を

(1) 男性の仕事時間は10時間以上が過半数、既婚男性は12時間以上も3割超 (図表9-1)

仕事時間(昼休み、休憩を含む)を尋ねたところ、男性では配偶者の有無にかかわらず、過半数の人が1日10時間以上。12時間以上と回答した人も単身者で2割、既婚者では3割を超える。このため仕事を終えたあと自由に使える時間は、限られている。

女性の場合は、単身者では10時間を超える割合が36.8%で、既婚者と比べると13.6ポイント多い。単身女性の場合、男性ほどではないにしても長時間労働の人が多くいる。

図表9-1 正規就労者の仕事の時間



女性について

(2) アフターファイブ 既婚者は家族中心、単身者はパソコン、グルメ、習い事など (図表9-2)

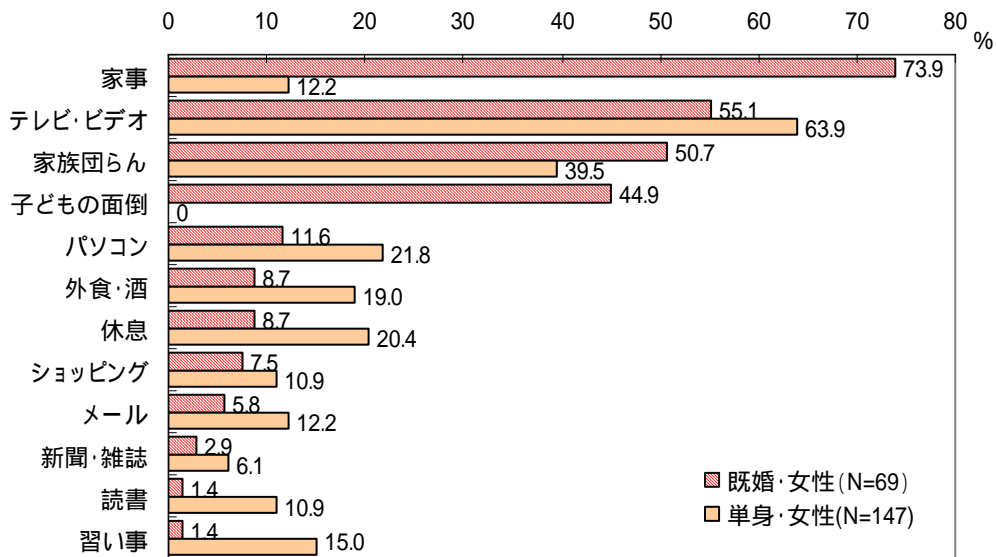
正規就労者に「仕事を終えてから寝るまでの過ごし方として多いものは何か」を尋ねた。

既婚者は、「家事」(73.9%)、「テレビ・ビデオ」(55.1%)、「家族団らん(食事を含む)」(50.7%)、それに「子どもの面倒」(44.9%)で多くを占め、その他には「パソコン」(11.6%)がある程度で残りは1割に満たない。

単身者の場合、「子どもの面倒」がないのは当然として、既婚者と比べ「家事」(12.2%)は大幅に少ないのが目立つ。調査対象の単身女性の75%が親と同居していたが、どうやら家事は親依存のようだ。また、「家族団らん」(39.5%)も少ない。

一方、「テレビ・ビデオ」(63.9%)は既婚者より若干多く、「パソコン」「外食・酒」「休息」が2割前後で既婚者の2倍。「ショッピング」「習い事」など帰宅途中での行動も10%台と既婚者に比べて多く、さらに「読書」も1割いるなど、終業後の自由な時間を多様な過ごし方で楽しむ姿がうかがわれる。

図表 9 - 2 仕事を終えてから寝るまでの過ごし方<正規就労・女性> (回答は3つ以内)



男性について

(3) アフターファイブ 既婚者は家族との時間、単身者は自宅で1人の時間を過ごす (図表 9 - 3)

正規就労の男性にも同じ質問を行った。

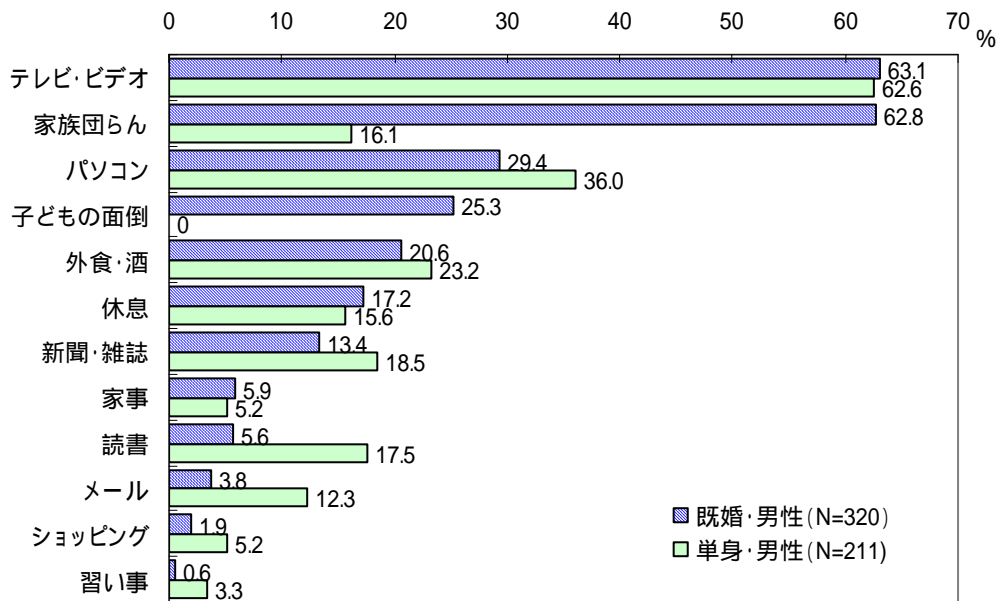
既婚者は「テレビ・ビデオ」「家族団らん」が6割台で多く、次いで「パソコン」(29.4%)、「子どもの面倒」(25.3%)。既婚者の多くは仕事を終えたあと、家族と過ごしていることがうかがわれる。「家事」は5.9%と少なく、子どもの面倒をみる人はいるが、家事は行わないという人が大半のようだ。もっとも、男性の仕事時間は長いため、帰宅してから就寝までの時間は女性より少ない。「子供の面倒」についても行動した人の割合であり、実際に費やした時間は必ずしも多くはないと思われる。「外食・酒」を挙げた人は2割。そのとき一緒の人は、約半数が「配偶者」と回答 (図表 9 - 4)。仕事を終えた後、職場の人よりも配偶者と一緒の「外食・酒」が選好されている。同時に、単身者と比べ「自分ひとり」の割合が高い。

単身者は「テレビ・ビデオ」(62.6%)が群を抜いて多く、次いで「パソコン」(36.0%)、「外食・酒」(23.2%)、「新聞・雑誌」(18.5%)、「読書」(17.5%)。

調査対象の単身男性の7割が親と同居していたが、「テレビ・ビデオ」は約8割の人が「自分ひとり」で見ている。単身女性の5割が家族と一緒に見るのに対し、単身男性では2割と少ない (図表 9 - 5)。単身男性は帰宅後、テレビを含め「パソコン」「新聞・雑誌」「読書」といった1人の時を過ごすことが多いようだ。

なお、「外食・酒」を挙げた人は既婚者と同様約2割。そのとき一緒の人は「職場の人」(42.9%)、「友人」(34.7%)とも既婚者より多く、他人との交流に充てている単身者が多い (図表 9 - 4)。

図表 9-3 仕事を終えてから寝るまでの過ごし方<正規就労・男性> (回答は3つ以内)



図表 9-4 仕事のある日「外食・酒」を一緒にする人<正規就労・男性> (回答はいくつでも) (%)

	配偶者	自分ひとり	職場の人	友人	恋人
既婚 (N=66)	47.0	30.3	30.3	19.7	1.5
単身 (N=49)	0	24.5	42.9	34.7	22.4

図表 9-5 仕事のある日「テレビ・ビデオ」を一緒にみる人<正規就労> (回答はいくつでも) (%)

		配偶者	子ども	自分ひとり	親・兄弟姉妹
男性	既婚 (N=202)	73.8	42.6	33.7	1.5
	単身 (N=132)	0	0	81.8	21.2
女性	既婚 (N=38)	63.2	39.5	34.2	2.6
	単身 (N=94)	0	0	57.4	51.1

10. 正規就労者の休日の過ごし方

女性の休日	既婚者はたまった家事、単身者はショッピング
男性の休日	既婚者は2人に1人が妻とショッピング。家事をするのは10人に1人。 単身者はショッピング、ドライブ、スポーツなど多様な過ごし方
	単身男性の外出は、恋人・友人と一緒に多いが、1人で気楽な時間も

女性について

(1) 既婚者はたまった家事、単身者はショッピング(図表 10-1)

正規就労者に“休日の過ごし方として多いものは何か”を尋ねた。

既婚者は、「家事」(65.2%)が最も多く、次いで「家族団らん(食事を含む)」(39.1%)、「子どもの面倒」(39.1%)、「ショッピング」(37.7%)、「テレビ・ビデオ」(31.9%)が3割台で拮抗。

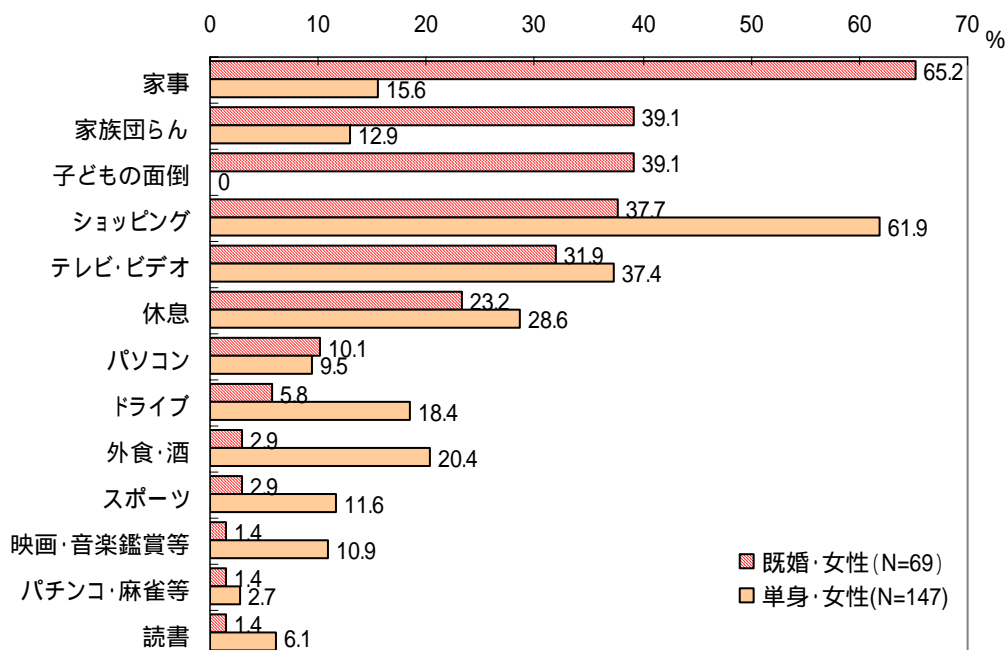
仕事のある日と比べると「ショッピング」が1ヶ台から4割近くに増えているのが特徴。休日にまとめ買いをしたり、夫や子どもと「ショッピング」そのものを楽しむ姿が想像される。

また、「休息」も2割台に増加。なお、「家事」「家族団らん」等の選択率は仕事のある日に比べて低下しているが、これは休日の行動が多様化したため、回答が分散した結果とみられる。

単身者は、「ショッピング」(61.9%)が群を抜いて高い選択率。次いで「テレビ・ビデオ」(37.4%)、「休息」(28.6%)の順。仕事のある日に比べると、「ショッピング」が6倍に増えることが特徴。

また、「ドライブ」(18.4%)、「スポーツ」(11.6%)、「映画・音楽鑑賞」(10.9%)といった外出して時間のかかる行動が多いことも特徴。これらの割合は既婚者と比べても高い。

図表 10-1 休日の過ごし方<正規就労・女性>(回答は3つ以内)



男性について

(2) 既婚者は2人に1人が妻とショッピング。家事をするのは10人に1人。単身者はショッピング、ドライブ、スポーツなど多様な過ごし方(図表10-2)

正規就労の男性にも休日の行動について同じ質問を行った。

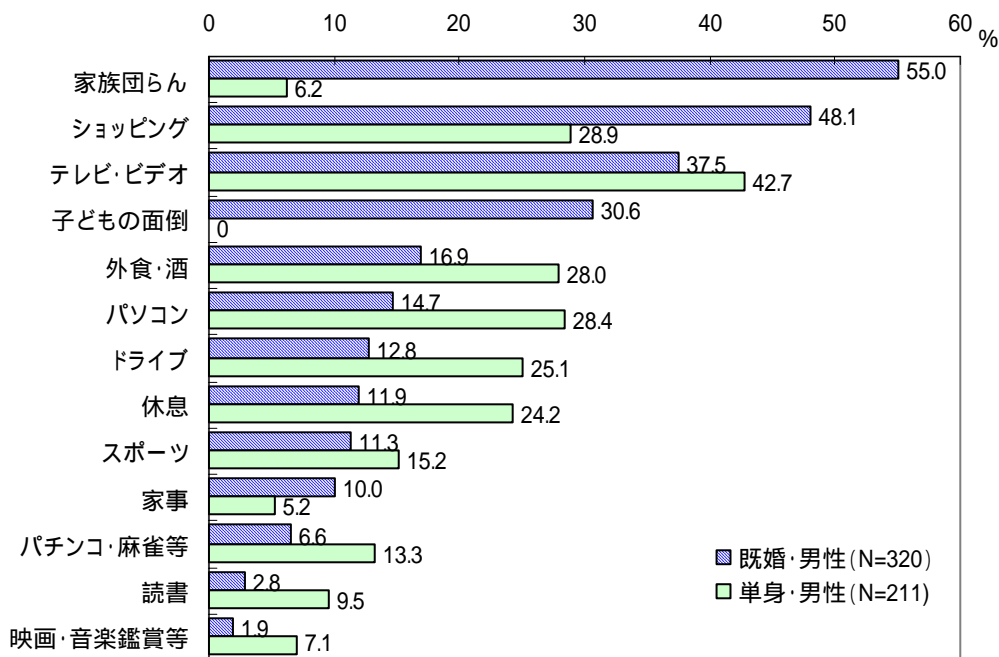
既婚者は「家族団らん」(55.0%)が最多で、次いで「ショッピング」(48.1%)、「テレビ・ビデオ」(37.5%)、「子どもの面倒」(30.6%)の順。

仕事のある日と比べて「ショッピング」が大幅に増加したのが特徴。既婚男性の2人に1人は休日に「ショッピング」をしている。このうち、ほぼ全員が配偶者と一緒に出かけている(図表10-3)。ただし、「家事」をするのは休日でも10人に1人と少ない。

単身者では「テレビ・ビデオ」(42.7%)が突出し、「ショッピング」「パソコン」「外食・酒」「ドライブ」「休息」が20%台で拮抗している。

平日と比べると単身女性と同様、長時間外出する「ショッピング」「ドライブ」「スポーツ」が大幅に増えている。

図表10-2 休日の過ごし方<正規就労・男性>(回答は3つ以内)



図表10-3 休日に「ショッピング」を一緒にする人<正規就労・男性>(回答はいくつでも) (%)

	配偶者	子ども	自分ひとり	友人	恋人
既婚(N=154)	96.8	77.3	5.8	1.9	0.6
単身(N=61)	0	0	47.5	24.6	36.1

(3) 単身男性の外出は、恋人・友人と一緒に多いが、1人で気楽な時間も多い(図表10-4)

単身男性が休日の行動を誰と一緒にするのかを「ショッピング」「外食・酒」「ドライブ」「スポーツ」についてみた。「ショッピング」は「自分ひとり」でしている人が約半数いる一方、3人に1人が「恋人」、4人に1人が「友人」としている(図表10-3)

「外食・酒」は「自分ひとり」(16.9%)の場合は少なく、「友人」(61.0%)や「恋人」(40.7%)と一緒に多い。「ドライブ」は単独でのドライブ(39.6%)や、「友人」(34.0%)や「恋人」(26.4%)などに分散。

配偶者や子どもがいないため、1人で気楽に行動したり、友人や恋人と一緒に行動を楽しむなど、TPOに応じて過ごしていると推察される。

なお、一緒に行動する人として、「スポーツ」については「サークルなどの仲間」のウエイトが高いのが特徴。半面、「自分ひとり」とする割合が4割あり、ジョギングやスポーツジム等での単独のスポーツ愛好家も多いと推測される。

図表10-4 休日に行動と一緒にしている人<正規就労・単身男性>(回答はいくつでも) (%)

	自分ひとり	友人	恋人	親・兄弟	サークルなどの仲間
外食・酒(N=59)	16.9	61.0	40.7	13.6	3.4
ドライブ(N=53)	39.6	34.0	26.4	7.5	0
スポーツ(N=32)	40.6	50.0	3.1	6.3	21.9

11. 既婚世帯の貯蓄行動

第1子誕生、「毎月貯蓄を始めるか…」 定期的貯蓄のキッカケは初めての子ども誕生
 子どもが3人、「貯蓄まで手がまわりません」

(1) 初めての子ども誕生が定期的な貯蓄のきっかけに

“あなたは貯蓄をしていますか”と尋ねた結果を、子どもの人数別にみた(図表11-1)。

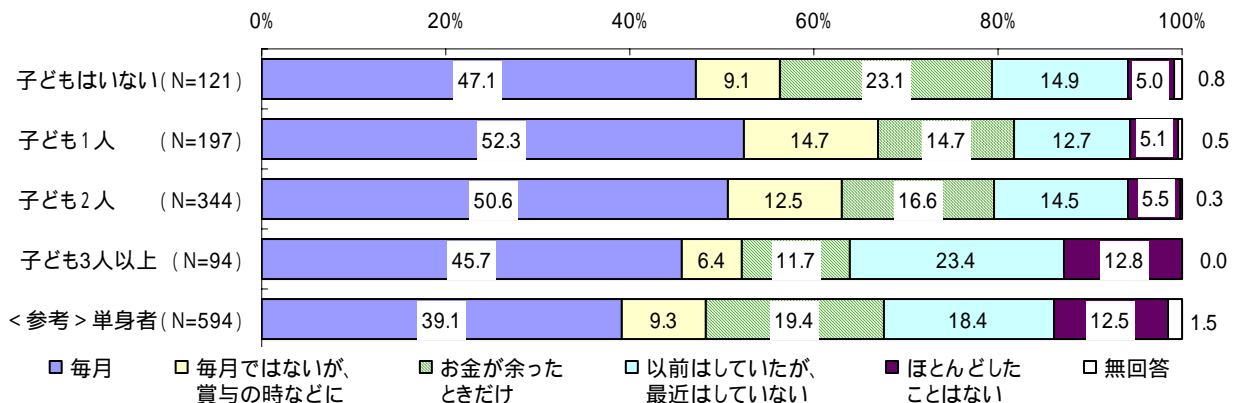
「子ども1人」の世帯が、「毎月」と答えた割合がもっとも高く52.3%。「毎月ではないが賞与の時などに」(14.7%)を合わせると、67.0%が定期的に貯蓄をしている。「子どもはいない」世帯では定期的に貯蓄をする割合は56.2%(47.1%+9.1%)であり、「子ども1人」の世帯より11ポイント以上低い。初めての子ども誕生が貯蓄行動に大きな影響を与えていることがわかる。

ところが子どもの数が増えるしたがって、定期的に貯蓄をする割合は下がっていき、「子ども3人以上」の世帯では、52.1%(45.7%+6.4%)にまで低下する。逆に「以前はしていたが、最近はやしていない」と答えた割合が23.4%と高いことから、貯蓄はしたいが、その余裕がなくなる世帯も多いと推測できる。

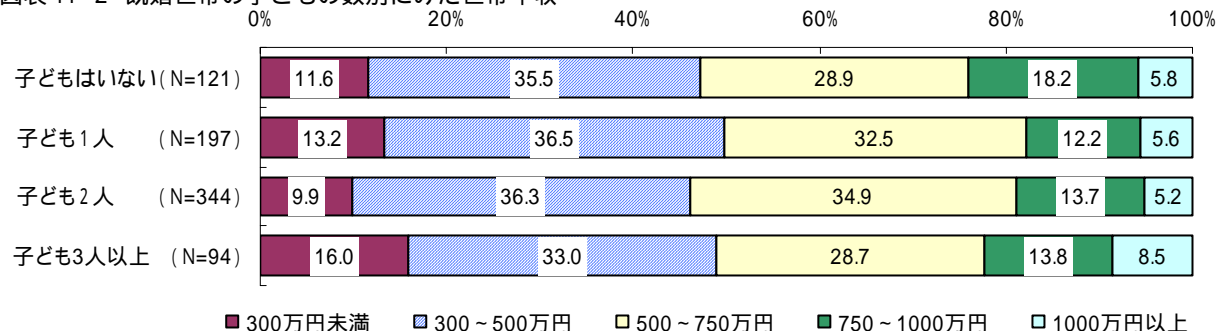
定期的に貯蓄をする割合は、収入に比例して高くなるが(図表は割愛)、本調査における「子ども1人」の世帯の収入は、他の世帯より多いという傾向はみられない(図表11-2)。このため初めての子ども誕生が、将来の養育費や教育費に備えて計画的に貯蓄をする動機になったと考えるのが自然であろう。

なお「子ども3人以上」の世帯年収が、「300万円未満」と「750万円以上」の両極に多いことが目につく。

図表11-1 既婚世帯の子どもの数別にみた貯蓄行動



図表11-2 既婚世帯の子どもの数別にみた世帯年収



12. 単身者の貯蓄行動

女性のほうが貯蓄好き	頼りになるのはお金？
男性でもっとも貯蓄をするのは20歳代後半層	「結婚資金」を意識
女性でもっとも貯蓄をするのは30歳代前半層	最大の理由は「貯蓄がないと不安」

(1) 女性のほうが貯蓄好き

“あなたは貯蓄をしていますか”という質問に対する回答を、男女別、年齢別にみた(図表12-1)。どの年齢層でも、「毎月」と回答した割合は、女性のほうが男性より高い。特に、30歳代前半層では、男性30.4%に対し女性は約2倍の60.0%で、30ポイント近い開きがある。

(2) 男性でもっとも貯蓄をするのは20歳代後半層 「結婚資金」を意識

男性では、「毎月」と答えた割合がもっとも高いのは、20歳代後半層で38.4%。「毎月ではないが賞与の時などに」(9.4%)を合わせると、47.8%が定期的に貯蓄をしている。20歳代前半層では、定期的に貯蓄をしている人はわずか27.5%(17.2%+10.3%)であり、20ポイント以上の開きがある。

貯蓄をする理由を見ると、20歳代後半層では、「貯蓄がないと不安」(51.6%)、「不時の出費への備え」(50.5%)および「結婚資金」(35.2%)を挙げた人が他の年齢層より多く、「自動車や家電などの購入」(18.7%)が少ないのが特徴(図表12-2)。

20歳代後半になると、気ままに暮らしていた20歳代前半と比べ、生活基盤を固めたうえで結婚をしたいと考える男性が増えてくると考えられる。

(3) 女性でもっとも貯蓄をするのは30歳代前半層 最大の理由は「貯蓄がないと不安」

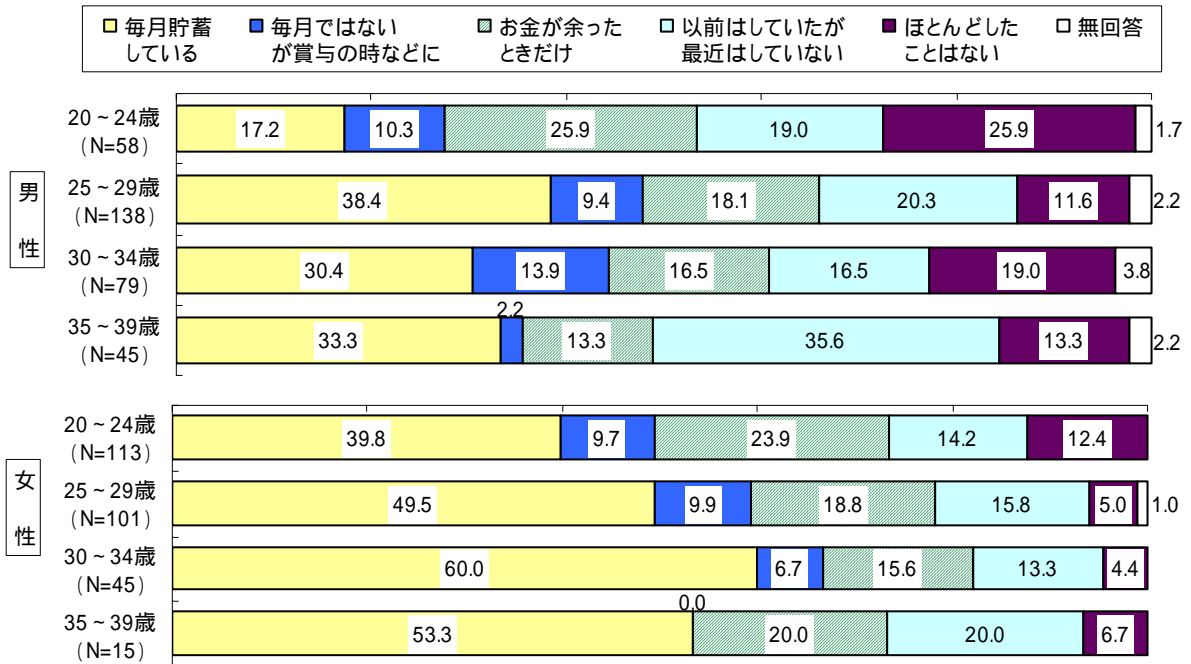
女性は、サンプル数の少ない30歳代後半層を除けば、年齢が高いほど定期的に貯蓄をする人が増える傾向。「毎月」と答えた割合がもっとも高いのは、30歳代前半層で60.0%。「毎月ではないが賞与の時などに」(6.7%)を合わせると、66.7%が定期的に貯蓄をしている。

貯蓄をする理由を見ると、30歳代前半層では、「貯蓄がないと不安」を選んだ人がもっとも多く59.5%。一方、「結婚資金」を挙げた人は27.0%で、20歳代後半層(44.3%)との比較では17.3ポイントも低い(図表12-2)。

30歳代前半になると相応の結婚資金が準備できるため、貯蓄の目的が多様化するということがもしれない。

図表 12-1 単身者の貯蓄行動

(%)



図表 12-2 貯蓄する理由 (回答は3つ以内)

